

# クルリンとほしぞらさんぽ 7月号



## 美しい星空の季節ですよ

7月といえば七夕さんですね。ということはあの美しい天の川に出会える空ですよ。天の川を見たことがありますか？



星が天の川をはさんで…という天の川の伝説が梅雨の雨の中ではおかしいでしょう？

もう一つ、おかしいことがあります。星座早見盤で7月7日の午後8時の星の位置を見ると、天の川は東の空の低いところにいることになっています。星座早見盤を動かしてごらん。伝説の舞台が東の低い空、それもおかしいでしょう？

七夕の節句は、昔は江戸時代までの暦こよみで旧暦きゅうれきと言われている「太陰暦たいいんれき（月の動きをもとにした暦）」の7月7日に祝っていました。

旧暦の7月7日は、今年は8月10日に当たりますから、星座早見盤を8月10日午後8時に合わせてごらん。すぐにやってみよう…

ほうらね、天の川が南の空に大きく広がっているのがわかりますね。おり姫星 = こと座のベガも彦星 = わし座のアルタイルも、旧暦の7月7日だと、見上げる星空が伝説にぴったりになるのですよ。

## 暗い夜空は

現代の夜空は市街地の明かりがじゃまして、天の川は見えないし、伝説に出てくる二つの星も、よく見れば見える…ていどですが、江戸時代以前の電気の明かりがない夜空では、天の川ははっきりとくっきりと明るく、夜空をまたいでいました。また二つの星もキラキラと輝いていたはずです。見上げた星空の美しさは、現代とは全く違って感動的だったでしょう。

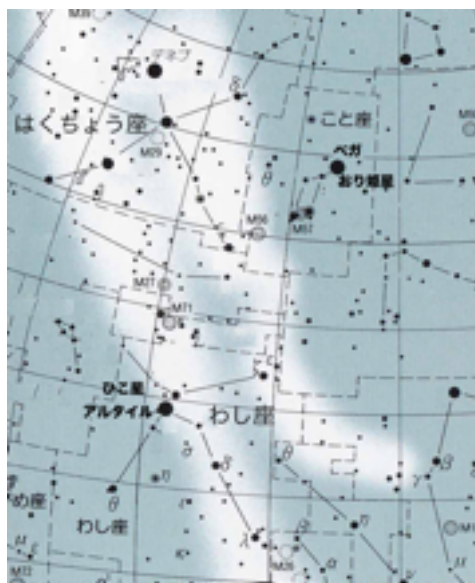
## 彦星とおり姫星

日本で古くからおり姫星と呼ばれていたのは、**こと座のベガ**です。ベガは全天で21個ある1等星の一つで0.03等、

## 実は…七夕は…

七夕は「正月、ひな祭り、こどもの日、七夕、お月見」と年に5つの節句の一つです。どの節句も現在の暦で行われていますが、七夕祭りは7月では実はだめなのです。え〜？ですか。

七夕は7月7日ですから、梅雨の最中になってしまいます。おり姫と彦



1.0等よりも2.5倍も明るく、青白く輝く星です。太陽系から25光年と近くにある星です。

彦星の方は、**わし座の1等星アルタイル**で、0.77等なのでベガよりも少しだけ暗いですね。地球からの距離は16.7光年、おり姫さんよりも地球に近く、二つの星は17光年はなれています。光の速さで飛んでも17年かかるわけですから、七夕の伝説は成り立ちませんね。七夕の伝説 知りませんか？。ぜひ本を探して読んでおきましょう。

## 夏の三大角

前ページの星図にこと座のベガとわし座のアルタイルがありますが見つかりましたか。そして

う一つの1等星は**はくちょう座のデネブ**もありますね。3つの星を結んでできる三角形を、夏の**大三角**と呼んでいます。夏の三大角は、街明かりで明るい伊勢原の空でも、かんたんに見つけることができます。

はくちょう座のデネブは1等星の一つですが、実際に見える明るさは1.25等、太陽からは1400光年以上も離れているらしいので、それで暗く見えているのでしょね。

夏の三大角のあたりは**天の川**ですので、双眼鏡で見ると、細かい星がそれこそすき間もなく散りばめられているのが見えることでしょう。

